

起こりうる災害に日常の備えを！

～3. 11津波避難訓練（白糠）～

3月11日（月）、白糠地区において、3. 11津波避難訓練が行われました。

本訓練は、一昨年の3月11日に発生した東日本大震災を教訓に、津波に関する理解と関心を深め、防災意識の向上を図るとともに、震災の記憶を風化させないことを目的に実施されました。

訓練は、午前9時30分に、青森県東方沖を震源とする地震が発生し、東通村では震度6弱となり津波が襲来、広範囲にわたり停電、家屋の倒壊・火災等の被害が発生したとの想定で実施されました。

地震が発生し大津波警報が発令されると、村及び消防署が防災行政用無線や消防車両で避難を呼びかけ、沿岸の住民は高台にある旧白糠幼稚園（海拔32.5㍎）と旧南部中学校体育館（海拔18.5㍎）に避難しました。

避難所では、越善靖夫村長より「村ではここ数年、洪水

や土砂災害で、幸いにも命を失う方はありませんでしたが、いつ災害が発生するかわからない近年の天候です。今年度から避難所にストーブや投光機等を配置しておりますが、引き続き、防災に関する備えを更に充実し、皆さんが安心できる環境作りに努めて参ります」と挨拶があり、地震に対する正しい知識と安全のための備えについて理解を深めることを目的に、DVD上映を行いました。また、消防署員によるAED講習や防災器材の展示、非常食の試食を行ない、非常時に役立つ備えについて紹介しました。



挨拶をする越善村長



DVDで災害時の適切な行動を学ぶ



AED講習の様子

東日本大震災の悲劇をいまでも忘れずに、訓練等を通して、いつ起こるかわからない災害に備えましょう。



住民避難訓練の様子